

あ い さ つ

会長挨拶

高知女子大学看護学会会長

山 崎 智 子

どうも皆さんしばらくでした。

先ほどから、皆さんの顔を見ていますと、それぞれに頑張っておられる様子が窺えて大変嬉しく思っております。本学会も20回を迎えてしまいました。名実ともに成人期に入ったところからです。今日は近衛先生がいらして下さっております。近衛先生がお辞めになられたのもその頃かなと思っていましたら、18年前になるんですってね。元気なお姿を見せて下さいましたので、また時間がありましたらどうぞお話し合い下さい。昔の卒業生は懐かしいのではないのでしょうか。

今年は例年がない猛暑、ほんとに大変な水不足で、それぞれの地で苦労しておられることと思います。去年は寒い冷夏で、今年はその反対ということで随分戸惑ってしまいますけれども、皆さん方はいかがでしたでしょうか。久しぶりに高知に帰ってこられた方々、どんな印象をお持ちでしょうか。四国四県の中では、比較的水ということでは今年は恵まれている方でしょう。久しぶりに高知でゆっくりしていただきたいと思います。

本学会も5月の看護職者を対象とした公開講座そして8月のこの学会と、学会活動が順調に、また活発に実施されるようになって参りました。会員の皆さん方のご支援があつてのことだと思ひますし、そしてまた、日頃から運営委員の皆さん方には努力をしていただいて、こうした会を催していただけることに対し大変感謝いたしております。改めてお礼を申し上げたいと思います。

昨年の本学会での総会で、看護学科の学部独立と、大学院設置に対して要望書を県に提出したいということで、ご賛同いただき、早速に要望書を提出したという経緯がございます。それだからということだけではないでしょうけれど、お陰様で、平成9年の再出発に向けての準備をすすめておりますことは、大変嬉しいことと喜んでおります。他学部、学科に一步先んじる形で動いているということがございますので、私どもの願いが、一步一步着実に、前進しているということで、一安心しております。

看護界も変革期と申しますか、変動期と申しますか、臨床も地域も、そして教育現場も、大変な時代を迎えております。皆さんそれぞれの場で悩み苦しみ、いろんな不安を抱えながら、仕事をしておられるのではないのでしょうか。このような学会活動を通じて、また学会に集まりましたときに、様々な悩み、不安を何らかの形で解消させ、あるいは解消への糸口を掴み取っていただければと願っております。

今日明日と大変暑い最中ではございますけれども、頑張って本学会を盛り上げていただきたいと
思います。初日は、いつもそうですけれども、入りが悪くて、途中で増えてというように、そして
総会ではまたしぼんでというようなことがありますけれども、どうぞ最後まで、活発なご意見をい
ただきたいと思います。

私ごとでございますが、この3月に退職をさせていただきました。その節は色々と有り難うござ
いました。お陰様で28年間になりますでしょうか、大役を果たしたというような安堵感を十分に感
じております。紐がまだついていて完全解放には至っていないということで、そのあたりがまだ何
となくすっきりしないところもありますけれども、お見かけ通りに元気に過ごしておりますし、こ
うした学会も皆さんのお力をいただき、ますます活発化させるべく、努力したいと思っております。
どうぞ皆さん方の力を結集させ、更なる発展を期したいと思えます。どうぞよろしく願いいたし
ます。